

## 2019 年度 事業報告

### I. 連盟活動報告

#### 1. 総括

JLAU 事業は、各委員会を主体とした事業の実施により、会員向けへの情報発信、CPD 単位取得機会の提供等を行った。また、新型コロナウイルス感染症対策として、JLAU 主催セミナー延期やオンライン会議により、会員を含む安全性確保に留意した。

IFLA-APR 大会日本開催に向けた活動として、各委員会の役割設定と連携による組織を構築し、「IFLA-APR 大会準備特別委員会」に移行し、大会のメインテーマや展開プログラムをとりまとめた。

2021 年 IFLA-APR 大会日本開催を目指した周知活動を行ったが、新型コロナウイルス感染症対策による IFLA-World 及び APR 大会の延期決定により、日本開催は 2021 年から 2023 年となった。

JLAU 運営は、理事会、常任理事会、業務執行理事会を開催し、JLAU 運営に必要な協議や調整を行い、IFLA-APR 大会日本開催に向けた理事の一部選任や顧問新任による体制強化案等検討、執行体制表の再整理等により、実行した。また、今後の JLAU 執行体制や委員会構成についても、2023 年 IFLA-APR 大会日本開催に向けた、ALL-JLAU 体制による執行において、協議・調整を行いながら決定するという、方向性を検討した。

地方在住会員向けサービスとして、ネットワーク委員会におけるセミナー等の地方開催、事業セミナー委員会や資格教育委員会におけるオンライン配信セミナーによる CPD 単位取得機会のあり方について検討に着手した。

一般社団法人としての法務届出の対応として、事務局長を中心とする体制による対応、業務執行理事会における進捗確認を行い、先行すべき役員異動に関する申請を完了し、合わせて滞っていた IFLA-APR 大会日本開催対応銀行口座の開設、IFLA 支払いの海外送金等についても完了した。

上記の事業及び運営により、概ね円滑な執行が出来た。

#### 2. 定時社員総会の開催

2019 年 6 月 29 日(土)TKP九段下神保町ビジネスセンターにて開催。定款第 18 条に基づき定足数の確認後、下記の議案の審議が行われ、原案通り承認された。

第1号議案 2018 年度 事業報告

第2号議案 2018 年度 収支決算報告・監査報告

第3号議案 2019 年度 事業計画案

第4号議案 2019 年度 予算計画案

第5号議案 役員改選・執行体制について

第6号議案 諸規則改定案

第7号議案 連絡事務局の契約について

総会終了後、特別シンポジウム「COMMON ISSUES ~世界が日本のランドスケープに期待すること。」を開催し、2021 年 IFLA-APR 大会日本開催に向けて日本と世界が共有する課題を探った。

#### 3. 理事会等の開催

2019 年度は、理事会 3 回、常任理事会 8 回、業務執行理事会 7 回を開催、その他電子による報告や審議により、JLAU 事業及び運営の執行を行った。

#### 4. 会員動向

2020 年 4 月 1 日現在の会員数は、総会員数 260 名(社)となり、2019 年同時期から増1名となった。内訳会員数(増減数)は、1)正会員・RLA 会員 179 名(+4)、2)正会員 58 名(-7)、3)一般会員 10 名(+2)、4)学生会員 4 名(-1)、5)企業・団体会員 9 社(+3)、6)名誉会員 0 名(±0)。

### II. 委員会活動報告

#### 1. 総務委員会(委員長:棚瀬新一朗)

当委員会は JLAU の運営に関わる業務を行うことを目的とし、1)総会、常任理事会、理事会開催に関する議事、日程調整。2)会の運営に関わる諸規則の確認。3)財務・会計の確認 に関すること等を行った。必要に応じた理事会開催、常任理事会と業務執行理事会の合同及び定期的な開催により、円滑な運営が図られていると考える。また諸規則については必要に応じて改定の必要性確認等を行っている。特に、当連盟の円滑な運営に資する手順書の作成など、システム化の推進については、業務執行理事会にて各委員会や事務局へ実施を推奨すると共に、総務委員会作成の手順書を例として提示を行った。また、新型コロナウイルス感染症対策として、対外・会員向け及び各委員会等への対応方針提示やセミナー等開催延期検討・調整やオンライン会議による実施等を行った。

新型コロナウイルス感染症対策による理事会・総会資料の作成に時間を要したが、これまでの課題に対

応じた改善提案、業務執行により概ね円滑な運営ができたと考える。収支はない。

## 2. 広報委員会(委員長:田嶋 豊)

当委員会はホームページ等を活用し、国内外にランドスケープアーキテクト(RLA)の社会的役割を周知し、ステークホルダーへむけてわかりやすく JLAU の活動情報を提供することを目的とする。1)会員には、ホームページ等により、ランドスケープアーキテクト及び周辺領域にかかわるセミナー、イベント、委員会活動を迅速に伝達紹介し、さらにアーカイブ化することで、会員が効率的に利用できるよう実施した。2)今年度はホームページの定期メンテナンスに加え、造園学会全国大会企画展への JLAU 紹介ポスター作成、掲示を行った。3)また、IFLA-APR 大会日本開催へ向けた体制強化として委員会メンバーの増員を実現できた一方で、IFLA-APR 大会開催準備特別委員会・広報局との役割分担を明確にできなかったことが課題となった。収支はポスター等製作の支出 25,963 円、収支-25,963 円となった。

## 3. 技術委員会(委員長:岩井 洋)

当委員会は RLA の活動領域の拡充を図ることを主目的とする。実施事業として、1)技術アーカイブ活動(ランドスケープ以外の分野における取組みや考え方をヒアリングし、HP を通じて会員への情報提供を目指した調整・準備。2)TOKYO GREEN 2020 推進会議特別委員会の環境測定活動などへ協力参加を行った。

例年継続してきた技術アーカイブ活動の実行に至らず、その準備などについて見直しを図る必要がある。ただし、特別委員会への協力参加に関しては実施することができたと考える。収支はない。

## 4. IFLA 委員会(委員長:保 清人)

当委員会はIFLA(国際造園家連盟)の活動に貢献し、会員向けに情報を共有することを目的とする。実施事業として、1)IFLA世界大会、IFLAアジア太平洋大会への出席。当該大会の成果報告とIFLAワーキンググループへの参加。国内での会員向け周知シンポジウムの開催。2)アジア太平洋の代表国としての対応。3)IFLA-APR 大会日本開催の誘致準備をIFLA-APR 大会準備特別委員会と実施した。

また、高野 JLAU 顧問がアジア太平洋の代表に当選し、高野代表のマニフェスト「IFLA加盟国増、海外インターンシップネットワークの構築」に対応した。大会報告の実践とCPD認定のシンポジウムを企画した(新型コロナウイルス感染症対策により中止)

IFLA-APR 大会準備特別委員会と連携することにより、国際課題の共有と、国内への周知活動が可能になった。IFLA委員会の活動が急激に増加したため、人員と予算の確保が課題となった。収支は大会参加助成金の支出 272,218 円、収支-272,218 円となった。

## 5. 事業セミナー委員会(委員長:鈴木裕治)

当委員会は事業セミナーの活動運営に関わる業務を行うことを目的とする。事業として、1)各部会の取りまとめ及び、各事業に関する運営調整。2)事業運営に関わる共通事項の確認。3)財務・会計に関すること等を行った。各部会の定期的なコミュニケーションにより、スムーズな運営が図られていると考える。一方、予定した事業が実施されないケースが多く見られた。原因としては開催月の多くが年度末に集中した上に、新型コロナウイルス感染症対策による自粛が影響し、多くの事業機会を失った。全体の成果としては従来の事業セミナーなどは概ね円滑な運営ができたと考える。今後はさらにIFLA-APR大会日本開催に向けた関連企画などを十分に練った上で活動を促して行きたいと考える。収支はセミナー企画運営の収入 324,347 円・支出 260,543 円、収支+63,804 円となった。

## 6. 資格教育委員会(委員長:八色宏昌)

当委員会は RLA 資格制度の普及や JLAU 会員の継続教育の推進に関する活動を行い、更なるランドスケープ領域の発展を目指すことを目的とする。実施事業は、1)RLA 資格制度の普及。2)CPD 単位の取得推進。3)研修プログラムの企画・運営 に関わる事業を行った。特に、CPD 単位の取得推進、研修プログラムの企画・運営に関しては新規企画として、資格教育セミナーvol.01「ランドスケープを語る～造園領域のアイデンティティ論からの提起～」を企画・開催により教養に関する展開を図ることが出来たと考える。収支は、研修等の収入 243,000 円・支出 273,817 円、収支-30,807 円となった。

## 7. ネットワーク委員会(委員長:吉武宗平)

当委員会は地方会員との交流や情報発信、セミナー開催によるCPD単位取得機会提供等のサービスを目的とし、4エリア(北海道、中部、関西、九州)毎に独自の企画運営により実行した。地域毎で特色を持たせ活動や別団体とのセミナー合同開催、九州における定期的なセミナー開催をすることが出来た。会員不足が依然大きな課題ではあるが、これらの活動を通じて JLAU の認知度および新規会員の増加に少なからず貢献できたと考える。今後は、各エリアの行動の方向性や情報の共有など、さらなる展開に向けた連携が課題として挙げられる。収支はセミナー開催等の収入 182,487 円・支出 186,085 円、収支-3,598 円となった。

## 8. ランドスケープ憲章検討特別委員会(委員長:根本哲夫)

当委員会は、日本固有のランドスケープ憲章を作成し、2020年度に公表することを目標として事業を行った。委員会における検討を重ね、ランドスケープ憲章素案は完成し、2019年秋の理事会にて提示、意見徴収の上修正作業を完了させている。収支はない。

#### 9. TOKYO GREEN 2020 推進会議特別委員会(委員長:篠沢健太)

当委員会は、TOKYO GREEN 2020 推進会議のメンバーとして活動を行うことを目的とする。成果として、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催時期に合わせ、新国立競技場、お台場の 2 エリアにおいて公共交通機関の最寄駅から競技場までの移動経路の気温変化を調査した。その結果を元に COOLMAP 作成を外部委託したが、諸事情により完成が困難となった。新型コロナウイルス感染症対策による同大会の開催延期もあり、TG2020 推進会議の活動継続も不透明な状況にある。COOLMAP はランドスケープの魅力伝えるメディアとして活用する当初の方針に従って、2020 年度内の完成を目指す。収支は、収入 0 円・支出 330,000 円、収支-330,000 円となった。

#### 10. IFLA-APR 大会準備特別委員会(委員長:平賀達也)

当委員会は IFLA-APR 大会日本開催の企画・準備・運営を行うことを目的とする。事業として、1) 2019 年 IFLA-APR セブ大会(フィリピン)における運営状況等の視察及び APR 主要メンバーとの打合せ、IFLA-APR 大会日本開催に向けたアピール。運営局、広報局、総務局の体制による大会開催に向けた準備。2)大会開催時期(当初予定 2021.11.10~12)、会場(二子玉川ライズ等)、開催概要、予算案等の検討。3)全体テーマ「Living with Disasters: 自然とともに生きていく」、サブテーマ(3つの目標)、15 のターゲットを検討した。オール JLAU による大会開催、開催後の JLAU 発展を見据えた取組みを強化、推進する方針とした。

また、新型コロナウイルス感染症対策の影響により 2020 年度マレーシア大会が 2021 年に延期されたことに伴い、日本開催も延期されることになった。(2020 年 4 月発表)。今後の社会情勢の変化や経済状況の悪化に伴い、大会の開催方法や規模、予算等の見直しが課題になっている。収支は収入 0 円、広報パンフレット・名刺等作成の支出 238,870 円、収支-238,870 円となった。

#### 11. クリエイティブカレッジプロジェクト(委員長:篠沢健太)

当委員会は RLA の計画技術・設計意匠能力の向上を目指すプログラムの企画・立案、材料や技術等、ランドスケープ分野の多領域での知識習得を推進、大学等との連携により、RLA が自らの設計計画活動を発表する機会を創出することを目的としている。

企画立案、提案の多くは、他の委員会活動と内容が重なり、各委員会独自の活動と仕事を考慮、調整し、分担・連携の方法を検討する必要がある。全体の成果としては課題に対応して概ね円滑な運営ができたと考える。特にセミナーや日比谷展では、JLAU の次の世代を担う若手が中核メンバーとして活躍した。

収支はセミナー開催の収入 123,503 円・支出

149,424 円、収支-25,921 円となった。

#### 12. 2025 年大阪・関西万博対応特別委員会(委員長:忽那裕樹)

当委員会は、オープンスペースネットワークの視点からまちづくりを展開することを目的としている。コンセプトとして、1)大阪・関西万博を契機に進む都市魅力創造の戦略に対して、ランドスケープ分野が扱う公園、河川、道路、広場を一体的に捉え、リサーチから未来のヴィジョンを描く。2)また、具体的な政策に対する反映を目指して、大阪府、大阪市、および、関西経済団体等に対して、提案の機会を創出、具体的な活動と合わせて進めていく。3)関西の各大学連携も考慮しつつ、若手の育成や他業界との連携も模索する。を設定した。

今年度は、この委員会のコアメンバーとコンセプトを共有し、運営の方向性の同意を得た段階である。今後、委員会活動を視野に入れ、活動をスタートさせることを早期に実現すべく行動する。収支はない。

#### 13. RLA になる本改訂編集特別委員会(委員長:八色宏昌)

当委員会の事業は「ランドスケープアーキテクトになる本 I・II(2015)」の改訂の企画・編集、出版社との出版に係る契約・編集等の連絡および調整を目的とする。今年度は、企画検討、特別委員会の体制検討、出版社との調整を実施し、事業の円滑な実行が出来たと考える。収支はない。

#### 14. JLAU エキシビジョン特別委員会(委員長:高橋靖一郎)

当委員会は、RLA ならびにランドスケープアーキテクトの継続専門教育の機会の拡充、職能の社会的認知の向上に資する展覧会の企画、運営を目的とする。今年度は、若手実務者の育成を目的とした新人賞の創設、展覧会企画の設定までを行った。収支はない。

#### 15. WEB 企画特別委員会(委員長:高橋靖一郎)

当委員会は、RLA ならびにランドスケープアーキテクトの継続専門教育の機会の拡充、職能の社会的認知の向上、職域の他分野との交流を促進する WEB メディアの開発、運用を目的とする。成果として、SITES を精読する機会を設け、翻訳成果を会員向けに配信する企画が承認された。その後の事業は進展していない。収支はない。

## 2019年度 収支決算報告・監査報告

### I. 経常収益

- ・経常収益は 4,058,036 円となり、前年度(4,476,332 円)比 418,296 円の減額となりました。
- ・内訳は受取会費が 2,944,000 円、受取入会金が 210,000 円、事業収益が 904,000 円、雑収益が 36 円となっており、事業の減少によります。
- ・会費の未収金は 790,000 円、前年度から 277,000 円の増額となりました。引き続き会費の納付のお願いをしてみたいです。

### II. 経常費用

- ・経常費用は 3,342,942 円となり、前年度(2,987,598 円)比 355,344 円の増額となりました。
- (1) 事業費
  - ・事業費は 2,225,449 円となり、前年度(1,987,703 円)比 237,746 円の増額となりました。
  - ・主な増額項目は以下の通りです。
    - a.外注費 (+426,653 円): TOKYO COOL MAP WEB サイト作成費、学会展示パネル作成費など
    - b.備品消耗品費(+182,767 円): 理事名刺及びカード製作費など
    - c.会場費(+126,086 円): RLA セミナー会場費、朝食会会場費の増など
    - d.会議費(+184,152 円): 総会イベント、クリエイティブカレッジイベントの増など
  - ・主な減額項目は以下の通りです。
    - a.旅費交通費 (-305,272 円)、通信運搬費 (-72,837 円)、諸謝金(-136,070 円)、調査研究費 (-99,927 円)、交際費 (-77,992 円): 事業の減少に伴い減額
- (2) 管理費
  - ・経常費用のうち管理費は 1,117,493 円となり、前年度(999,895 円)比 117,598 円の増額となりました。
  - ・主な増額項目は以下の通りです。
    - a.旅費交通費(+55,821 円): 理事交通費など
    - b.印刷製本費 (+250,690 円): 総会資料印刷費など
    - c.会場費(+130,809 円): 総会会場費など
  - ・主な減額項目は以下の通りです。
    - a.賃借料(-129,600 円): 過去、年度をまたいだ支払いとなっていたため、支払時期の訂正を行ったことによる減額です。
    - b.支払い負担金 (-269,164 円) : 定款変更申請が 2020 年 3 月にずれ込んだ関係により 2020 年 4 月支払となりました

### III. 結果

- ・当期経常増減額は、前年度比 773,640 円減の 715,094 円となり、法人税、住民税及び事業税の 70,000 円を引いた当期一般正味財産増減額は、645,094 円となりました。一般正味財産期首残高 5,257,954 円を加えました一般正味財産期末残高及び正味財産期末残高は、5,903,048 円となりました。

## 貸借対照表

2020年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	5,131,161	4,758,038	373,123
未収金	790,000	513,000	277,000
仮払金	0	2,274	△2,274
流動資産合計	5,921,161	5,273,312	647,849
資産合計	5,921,161	5,273,312	647,849
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
仮受金	13,000	0	13,000
預り金	5,113	15,358	△10,245
流動負債合計	18,113	15,358	2,755
負債合計	18,113	15,358	2,755
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 一般正味財産	5,903,048	5,257,954	645,094
正味財産合計	5,903,048	5,257,954	645,094
負債及び正味財産合計	5,921,161	5,273,312	647,849

## 正味財産増減計算書

自 2019年4月1日 至 2020年3月31日

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取会費	2,944,000	2,913,000	31,000
正会員・RLA会員(RLA会員)会費	1,770,000	1,860,000	△ 90,000
正会員(客員会員)会費	660,000	690,000	△ 30,000
準会員(一般会員)会費	55,000	45,000	10,000
準会員(学生会員)会費	9,000	18,000	△ 9,000
企業会員会費	450,000	300,000	150,000
② 受取入会金	210,000	60,000	150,000
入会金	210,000	60,000	150,000
③ 事業収益	904,000	1,503,300	△ 599,300
講習講演会関係収益	894,000	1,483,300	△ 589,300
協賛金収益	10,000	20,000	△ 10,000
④ 雑収益	36	32	4
受取利息	36	32	4
経常収益計	4,058,036	4,476,332	△ 418,296
(2) 経常費用			
① 事業費	2,225,449	1,987,703	237,746
外注費	426,653	0	426,653
旅費交通費	449,540	754,812	△ 305,272
通信運搬費	11,878	84,715	△ 72,837
備品消耗品費	209,528	26,761	182,767
印刷製本費	34,920	27,755	7,165
賃借料	3,240	3,240	0
支払負担金	25,000	25,000	0
諸謝金	315,683	451,753	△ 136,070
会場費	248,900	122,814	126,086
会議費	378,722	194,570	184,152
広告啓発費	30,000	25,000	5,000
調査研究費	82,240	182,167	△ 99,927
交際費	6,616	84,608	△ 77,992
雑費	2,529	4,508	△ 1,979
② 管理費	1,117,493	999,895	117,598
外注費	439,200	499,200	△ 60,000
旅費交通費	56,271	450	55,821
通信運搬費	100,882	32,289	68,593
備品消耗品費	4,824	0	4,824
印刷製本費	253,520	2,830	250,690
賃借料	0	129,600	△ 129,600
支払負担金	0	269,164	△ 269,164
会場費	130,809	0	130,809
会議費	2,106	0	2,106
雑役務費	56,000	60,000	△ 4,000
交際費	35,610	0	35,610
雑費	38,271	6,362	31,909
経常費用計	3,342,942	2,987,598	355,344
当期経常増減額	715,094	1,488,734	△ 773,640
税引前当期一般正味財産増減額	715,094	1,488,734	△ 773,640
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	645,094	1,418,734	△ 773,640
一般正味財産期首残高	5,257,954	3,839,220	1,418,734
一般正味財産期末残高	5,903,048	5,257,954	645,094
II 正味財産期末残高	5,903,048	5,257,954	645,094

## 財 務 諸 表 に 対 す る 注 記

1 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理について

消費税等の会計処理は、税込み方式を採用している。

2 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	債 権 金 額	貸倒引当金の当 期 末 残 高	債権の当期末残高
未 収 金	790,000	0	790,000
合 計	790,000	0	790,000

## 附 属 明 細 書

1 基本財産の明細

該当ありません。

2 引当金の明細

該当ありません。

## 財 産 目 録

2020年3月31日 現在

(単位:円)

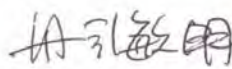

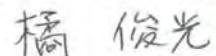

貸借対照表科目	場 所 ・ 物 量 等	使 用 目 的 等	金 額	
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として	490,169
	預金	普通預金 三菱UFJ銀行渋谷中央支店	運転資金として	2,622,803
		通常貯金 ゆうちょ銀行	運転資金として	2,018,189
		預金計		4,640,992
未収金	RLA会員・正会員の会費72名分、一般会員の会費2名分、企業会員の会費1名分及び学生会員の会費5名分		790,000	
流動資産合計			5,921,161	
資 産 合 計			5,921,161	
(流動負債)	仮受金	会費過入金		13,000
	預り金	源泉所得税	報酬の源泉所得税	5,113
流動負債合計			18,113	
負 債 合 計			18,113	
正 味 財 産			5,903,048	

## 監査報告書

2020年6月22日

一般社団法人  
ランドスケープアーキテクト連盟  
会長 戸田 芳樹 様

一般社団法人  
ランドスケープアーキテクト連盟

監事    
監事  

私たち監事は、一般社団法人ランドスケープアーキテクト連盟の2019年4月1日から2020年3月31日までの2019年度における会計及び業務の監査を実施し、以下のとおり報告します。

### 1. 監査方法の概要

- (1) 会計監査については、帳簿及び関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を実施し、財務諸表の正確性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会等の会議に出席し、理事からの業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧その他必要と思われる監査手続を実施して、理事の業務執行の妥当性を検討しました。

### 2. 監査意見

- (1) 財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書）は資産、負債及び正味財産増減の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書の内容は、真実であると認めます。
- (3) 理事の職務執行に関して、不正行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

以上